

氏名	石岡 千弘
ヨミガナ	イシオカ チヒロ
学位の種類	博士（音楽）
学位記番号	博音第1号
学位授与年月日	平成29年3月18日
学位論文題目	セルゲイ・ボルトキエヴィチ研究 ——自筆資料に基づく生涯・音楽観・ピアノ作品の考察——
博士論文審査委員会	（主査） 教授 岡田 敦子（器楽（ピアノ）） （副査） 教授 石井 克典（器楽（ピアノ）） （副査） 教授 村田 千尋（音楽学） （副査） 准教授 藤田 茂（音楽学） （副査） 森田 稔（音楽学） （宮城教育大学名誉教授）
博士演奏等審査委員会	（主査） 教授 岡田 敦子（器楽（ピアノ）） （副査） 教授 石井 克典（器楽（ピアノ）） （副査） 教授 村上 隆（器楽（ピアノ）） （副査） 教授 菅原 淳（器楽（打楽器）） （副査） 教授 釜洞 祐子（声楽） （副査） 教授 藤原 豊（作曲・ソルフェージュ） （副査） 准教授 藤田 茂（音楽学） （副査） 角野 裕（器楽（ピアノ）） （東京藝術大学教授）

## 審査結果の要旨

### 1. 博士論文審査委員会

日 時	平成 29 年 2 月 24 日 (金) 16 時 30 分～19 時 00 分
場 所	東京音楽大学 J208
判 定	大量の一次資料を丹念に調査・収集・分析したのみならず、それを駆使して新たな再評価の枠組みを提示するに至っており、きわめて学術的価値の高い、優れた論文として、合格と判定された。
審査結果の要旨	<p>セルゲイ・ボルトキエヴィチ (1877 ハリコフ～1952 ウィーン) の網羅的な研究としては、前例のないものだと言える。</p> <p>本論文においては、まず先行研究を網羅的に紹介することによってボルトキエヴィチ研究の現状を明らかにした上で、オランダ、ドイツ、ロシア、オーストリアなどの資料館に所蔵されているボルトキエヴィチの自伝、書簡、自筆譜を丹念に掘り起こし、資料状況を整理し、一覧表化している。ボルトキエヴィチの一次資料の状況を網羅的に整理した先行研究はなく、その学術的価値は高く評価できる。</p> <p>次に、丹念に読み込んだ資料を基に、ボルトキエヴィチの生涯と音楽観を描き出しているが、ここで単なる伝記的記述にとどまるのではなく、「傑作を数多く生み出すことよりも、日常生活の中でより身近に音楽を実践することを目指す」という音楽観を読み取ることを通して、ボルトキエヴィチの作品の分類について新しい視点を提示している。それは、年代やジャンルによる一般的な方法ではなく、「意図された演奏場面を軸として」作品を分類する方法であり、その結果、「コンサート・ピース」「サロン的小品」「教育目的の作品」という 3 つのグループを立てることによって、ボルトキエヴィチの膨大なピアノ曲の全容が明快に把握されるだけでなく、「傑作か駄作かという水掛け論を超えて、従来の音楽の評価基準そのものを再考する力をもっている」と評価できる。</p> <p>さらに、ボルトキエヴィチのすべての作品にまたがる特徴として、独自のペダル記号、声部の弾き分け、ロシア素材の引用などについて具体的な論証を行い、演奏に直結した解説と提言を行っている点は、演奏家が行った研究として説得力をもっている。</p> <p>また、ロシア革命によって国外へ亡命した音楽家のなかで、ラフマニノフやストラヴィンスキーといった第一級の音楽家の足跡は知られているが、それ以外にも多数の音楽家があり、そのうちの一人の作曲家の厳しい生涯の歩みと創作活動を明らかにしたことは、ロシア音楽史としても価値が高い。</p> <p>資料収集の膨大さ、その適切な扱い、そこから作曲家の人と作品を描き出した論理性など、多くの面においてきわめて学術性の高い、優れた論文であると審査員全員が一致し、合格と判定した。</p>

## 2. 博士演奏等審査委員会

日 時	平成 29 年 2 月 22 日 (水) 18 時 30 分～20 時 00 分
場 所	東京音楽大学 J スタジオ
判 定	プログラミング、演奏ともにきわめてレベルが高く、優れた演奏会であると審査員が全員一致し、合格と判定された。
審査結果の要旨	<p>ボルトキエヴィチ (1877 ハリコフ～1952 ウィーン) のピアノ曲は、その死後ほぼ忘れ去られていたが、近年少しずつ再評価が進んでいる。ピアノ協奏曲第 1 番の日本初演 (2011 年) を行った石岡千弘は、博士課程でボルトキエヴィチ研究を行い、そこで読み取った「傑作を数多く生み出すことよりも、日常生活の中でより身近に音楽を実践することを目指す」というボルトキエヴィチの音楽観を基に、「意図された演奏場面を軸」としてピアノ作品を 3 分類する方法を提案し、その分類に従ってこの日のプログラムは組まれた。</p> <p>「サロンの小品」…リリカ・ノーヴァ op.59、ピアノのための小説 op.35  「教育目的の作品」…「アンデルセン童話よりー音楽の絵本ー」 op.30 より 3 曲  「コンサート・ピース」…ピアノ・ソナタ第 2 番 op.60</p> <p>いずれの作品もきわめて質の高い演奏で、審査委員より「技術的完成度の驚くべき高さ」「呼吸がしなやかで、自然な生命感」という評価があり、「歌が浮かび、バレエを踊ることができる」という感想が述べられた。また、「プログラミングが優れており、ボルトキエヴィチの音楽の全容を伝える演奏会となった」という発言もあった。</p> <p>博士学位審査演奏会は 60 分が要求されているが、開演から終演まで 80 分かかると長いプログラムであったにもかかわらず、聴衆をまったく飽きさせることのない、「魅力的な演奏」であった。審査員のなかから批判的な意見はまったくなく、全員一致で合格と判定された。</p> <p>なお、とくに教育用作品について、一曲一曲に難易度をつけて楽譜を出版することが推奨された。</p>

以上